



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

府中中河原雲母保育園



テーマ【 身体感覚 】

設定した理由・背景

・幼児クラスから相撲を活動に取り入れる等、日頃から園全体でたくまし身体作りについて考えている。乳児クラスから日々の生活の中で色々な物を見たり、触れたりしながら身体を動かすことに楽しむ姿が見られる為、このテーマに設定した。

用意した環境設定

- ・マット ・ソフトブロック・トンネル・手押し車
- ・体操の時間 ・ウォーターマット・ポットン落とし
- ・ボール遊び ・手繋ぎ散歩や公園で歩行を行う
- ・購入物品 ソフトブロック ウォーターマット シャボン玉セット 布

活動のあゆみ

○令和7年4月～令和8年3月

- 4月8日 : 戸外で座って探索活動を行う。高月齢は保育者と歩行の練習を行う。
- 6月3日 : マットの山をハイハイで乗り越える。
体操を行い音楽によって楽しんで身体を動かす。
- 7月17日 : ソフトブロックで段を上ったり坂を滑ったりする。
- 8月13日 : ハイハイでトンネルをくぐったりバランスストーンを渡ったりする。
- 10月17日 : 興味のある所でつかまり立ちをしたり伝い歩きをしたりする。
- 11月18日 : 廊下で友達と一緒にかけっこを行う。
- 2月19日 : ボールを投げたり転がしたりして活動を過ごす。
- 3月10日 : 足漕ぎ車に乗り、自分の足で前に進んで遊ぶ。

✿探究活動の実績✿

①どんな問いかけから始めましたか？

↓身体を動かすことを好んでいる様子から、それぞれの月齢に合わせて活動を設定した。ハイハイやずりバイが行えるようになってきた時に、トンネルで「くぐってみる?」「おいでー」とトンネルの向こうから顔を覗かせて興味を引き、楽しんで身体を動かすことができるように関わった。ハイハイで動く事が上手になってきたことでソフトブロックを出して身体のような動きを使う活動を行った。階段を「上れるかな」、坂を「シューと滑ってみる?」等と場所ごとに合わせて声を掛けた。子ども達の挑戦してみようとする気持ちを引き出した関わりを行った。

②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

↓トンネルでは初めは保育者が顔を覗かせてもトンネルの中に入ることが怖い様子でなかなか進めない姿があったが、「おいでー!」等の声掛けや好みの玩具を見せたりすると興味を引かれ、怖さが薄れたのから自らトンネルをくぐろうとする様子が見られていた。1、2回成功すると怖さも無くなったようで友だちと一緒に何度も往復してトンネルくぐりを行う姿が見られるようになってきた。ハイハイが上手になり、身体も作られてきた頃にソフトブロックで活動を行った。最初は段の1段目で四つん這いの姿勢で固まっていたり、ブロックを叩いて様子を見ていたりした。段に関しては「ハイハイだよ」と身体を支えて援助を行うと手や足の使い方を理解し、2、3回活動を行うと楽しんで何度も上る姿が見られるようになった。坂部分では「滑り台だね」「滑ってみる?」と声掛けを行うと、始めは高さもあり怖がっていた様子だったが、保育者に見てもらえていることや手を繋いで支えてもらえているといった安心感から滑ってみようとする意欲がでてきたようで坂を滑ろうとする姿があった。数回繰り返すうちに自信もついてきて一人で滑って遊ぶ様子も見られていた。

③活動中の子どもたちの姿・声、子ども達同士の関わり・対話

↓各々が保育者や友達と取り組んでいる様子を見て真似をして運動遊びを行っていた。トンネルでははいはいで進んでいった後に、いないいないばあをしていくかの様にトンネルから出る時に「ばあ!」と笑顔で顔を出したり、ソフトブロックでも喃語でコミュニケーションをとりながら一緒に階段部分を登ったり滑り台を滑ったりしていた。室内で楽しみながら身体を動かして行ったことで徐々に身体も作られていき、戸外や室内問わず保育者と歩いたり追いかけてっこをしたりする事も好むようになってきた。遊びや活動の中で一緒に歩いたり「まてまて」と保育者を追いかけてたり自分が追いかける事を楽しんで夢中で行っていた。月を重ねるごとに動かせる身体範囲が広がったり、行える動きが増えたりすることで子ども達も挑戦的に運動遊びに取り組む姿が見られていた。

④終わりの時期の姿・まとめ

年度末では戸外活動時にバギーよりも歩行を楽しく行い、活動時も砂遊びだけでなくかけっこや遊具に向かい積極的に身体を動かして過ごすようになった。



トンネルくぐり



ソフトブロック



かけっこ・歩行

まとめ

子ども達の好みをテーマに取り入れたことで伸び伸びと楽しんで身体を動かす姿が一年を通して多く見られていた。室内外問わず月齢に合わせた運動遊びを展開することで子ども達それぞれが興味を持って挑戦しようとする姿があり、その都度興味を持てるように保育者が一緒に行ってみたり、挑戦心が出るような声掛けを行ったりといったような援助をした。結果、月の中でも初旬にはできなかったことが下旬にはできるようになっているといった成長を感じられる場面が多く見られていた。保育参加でもこんな事ができるようになっているのか、家でも取り組みそうと言った言葉を頂くこともあり、園だけでなくご家庭との連続性に繋げる事ができた。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

府中中河原雲母保育園



テーマ【 色 】

設定した理由・背景

・子ども達は身の回りの色に敏感に反応し「これはきいろ？」など折に触れ尋ねる姿がある。給食の食材の色や園で栽培している野菜の色の他、園の周辺には畑があり、散歩中に野菜の色などを見ることが出来るため、食を通して色への探求心を育みたいと思い設定した。

用意した環境設定

- ・園庭で育てている野菜（カブ・人参）
- ・絵の具・筆・パレット・カブの絵の台紙
- ・購入物品 園にあるもので対応した

活動のあゆみ

○令和8年1月～2月

1月6日：色の導入

1月7日：園庭のプランターから人参の収穫

1月9日：園庭のプランターからカブの収穫
（令和7年11月に種から育てた野菜）

1月13日：カブの絵に色を塗る

1月：出来たものを壁にはる

（自分が塗ったものを探し、よくみていた）

2月：散歩中、畑の野菜を観察する

✧探究活動の実績✧

①どんな問いかけから始めましたか？

↓プランターの人参の収穫をする前に「〇〇ちゃんの好きな色は何？」「お洋服の色と同じかな？」など話し色には名前がある事に気付く事から始めた。後日「葉っぱの色などどんな色かな」「これは何色かな」など野菜の色の問いかけをもした。

②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

↓・収穫したカブを子ども達の間で順番に回してみたところ「かわいい」と言う子もおり、嬉しそうな表情があった。「何色かな？」の問いかけに「白」「緑」などの答えがあった。「本当に白なのかな」と話しながら絵の具の色を見比べられるようにし、「カブの色と本当に同じかな？」など話した。子ども達は首を傾げながら絵具とかぶをじっと見つめ考えている様子があった。子どもの反応をみながら白に黄色や黒等も混ぜ、本物に近い色を作ってみせた。カブの葉の色も同様に作り「カブの絵に色を塗ってみよう」と声をかけるとどの子も初めての活動にキラキラと輝かせていた。

③活動中の子どもたちの姿・声、子ども達同士の関わり・対話

↓・カブの実の白と葉の緑のパレットを見せながら色を付ける場所を知らせた。子どもが自分で出来る喜びを感じられるよう「こども塗ってね」「上手ね」など声をかけ見守った。自分でできた事で満足そうな表情が見られた。自分の順番がくるのを待っている子達は、友だちの満足そうな表情をみて、早くやりたいと身振りや声で伝えていた。別日の散歩中、畑の野菜をみて、子ども達の中から「緑だ」「きいろ」と指差しながら知らせる場面もみられるようになった。

④終わりの時期の姿・まとめ ・色への興味が増し、言葉で色の名前を伝える姿が増えた。



カブの収穫の様子



カブの色を作る様子を真剣に見ている



カブの絵に自分で色を塗っている様子

まとめ

ほぼ全員が2歳になり理解力が上がった段階で始めた事で、今何をしているのかが分かり自分でやってみようという気持ちが表情で伺えた。カブの絵の色付けも筆の使い方も意識しながらカブの実と葉と分けて塗ろうとする様子があり、保育士が想像していた以上にできていた。野菜を育てたり散歩中に見たりする事で色への探求心も深まり、言葉で色の名前を覚え伝えようとする姿もみられるようになり、日々の生活の中の色にも気付があった。引き続き子どもの探求する気持ちを育てていきたい。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

府中中河原雲母保育園



テーマ【 形 】

設定した理由・背景

・園の周りで様々な種類の車を見ることができ環境がある。特に消防署との交流もあり、散歩の中で消防車等の見学ができる。その中でも車の色や形に興味を持つ姿が見られた為、働く車の色と形をテーマにする。

用意した環境設定

- ・カラー見本
- ・○△□の画用紙
- ・散歩で働く車を見に行く
- ・購入物品 パーテーション（働く車写真掲示用）

活動のあゆみ

○令和7年6月～令和7年11月

6月12日：散歩で消防署に消防車を見に行く。

7月29日：働く車の写真を見て、カラー見本で色合わせを行う。

8月18日：働く車の写真を見て、○△□の画用紙で同じ形を探す。

9月18日：保育参加にて廃材製作でオリジナルの働く車を作る。

11月21日：勤労感謝の日に消防署見学。消防車と救急車を間近で見学したり、消防士に話を聞いたりして理解を深める。

✿探究活動の実績✿

①どんな問いかけから始めましたか？

↓「みんな働く車好きだね。どんな車があるかな？それはどんな色かな？形かな？一緒に散歩に行って働く車を探してみよう。」という問いかけから始めた。

②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

↓問いに対し「消防車とか救急車がある」「消防車は赤！」という声が聞こえた。消防車が見たいという子ども達からの声で近くの消防署に見学に行った。柵越しに見学すると「赤色でかっこいいね」「星のマークがついているよ」との声が上がった。それを見ていた消防士が柵を開放してくださり近くで見学し、「はしごは何色かな？」「タイヤはどんな形かな？」と保育者が更に聞くと、子ども達は細かな部分にも興味を持ち、じーっと観察する姿が見られた。そこから、他の車の色や形にも着目し、探求を深めていった。

③活動中の子どもたちの姿・声、子ども達同士の関わり・対話

↓消防署見学を終え様々な車に興味を持ったことで、他の働く車の写真を用意し、室内活動でカラー見本で色合わせや、○△□の画用紙で形合わせを行った。「救急車の上は赤いよ」と友達同士で教え合ったり、「タイヤは丸いよね」と確認し合ったり、会話を楽しみながら活動に参加する姿が見られた。

④終わりの時期の姿・まとめ

↓働く車を通して、色や形の違いに気が付き、働く車だけでなく様々な色や形に興味を示す姿があった。色や形の認識もはっきりして「りんごは赤だね」「ここは丸いよ」と色や形の興味を深めることができていた。



消防署見学の様子



カラー見本で色合わせ



○△□の画用紙で形合わせ

まとめ

子ども達の興味のあることをテーマにしたことで、導入をした時から入り込みがよかった。普段何気なくみている色や形でも、働く車を通して子どもたちの興味に合わせて写真や実物やカードなどを取り入れ活動したことで、より関心を持つことができた。すくわくプログラムで取り組んだことにより、様々な色や形を理解できるようになっていた。また、今年の保育参加や運動会の親子競技を色や形に関連した活動にしたことで子どもだけではなく、保護者にも保育の繋がりを見ていただき良かった。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

府中中河原雲母保育園



テーマ【 音 】

設定した理由・背景

・日々の活動の中で聞こえる音に子ども達が疑問をもつことが多い。園の周りには多数の公園や線路など様々な音が飛び交っているため、様々な音の採取をできる。子ども達がどんな気づきや発想をもっているのかに着目し探求をするためテーマに設定した。

用意した環境設定

- ・子ども達同士の心臓の音を聴く、両親や保育者（大人）の心臓の音を聴く、胎内の音を聴く、室内の壁や戸外の自然物の音を聴く
- ・購入物品 聴診器

活動のあゆみ

○令和7年7月～令和7年9月（毎月1・2回程度）

- 1 種目テーマ：自然界・戸外先の音を聴く
 - ・7月15日 主活動の時間に戸外先の音を聴診器で聴く
- 2 種目テーマ：保育園内の音を聴く
 - ・8月21日 主活動の時間に保育園内（建物）の音や他児の心臓の音を聴く
- 3 種目テーマ：胎内（胎内児）の音を聴く
 - ・8月26日 夕方の合同保育時に保育者（妊婦）の胎内の音を聴く
- 4 種目テーマ：保護者と自身の音を聴く
 - ・9月24日 保育参加の時間に保護者にも体験してもらいながら、互いの心臓の音を聴く

✽探究活動の実績✽

①どんな問いかけから始めましたか？

↓・「これって何だと思う？」「音を聞くものだよ」という問いから始め、実際に購入した聴診器を子ども達に見せながら「みんなはどんな音が聞きたい？」「どこの音を聞いてみたい？」と使い方を説明し、関心を高めた。

②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

↓・音を聞くものであることを伝えると子ども達は戸外にある音に興味をもった為、戸外に音を聞きに行った。その際に子ども達は不思議そうな様子で「何で地面も音が聞こえるの？」と声が上がった。そこで「葉っぱはどんな音？石の中はどんな音がするのかな」と保育者がさらに問うと、子ども達は自然物の中の音に興味をもち、さらに木の中の音を聞いたり、室内では壁の中から電車の音がすることに気づいた。「水の中ってどんな音だろう」や「心臓の音を聞いてみよう」等、身近にある様々な音に着目し、探求を深めた。

③活動中の子どもたちの姿・声、子ども達同士の関わり・対話

↓・様々な音に興味をもち、聴診器で好きな場所を選びながら真剣に音を聞く姿が見られた。その中で「〇〇君の心臓の音は聞こえないよ、〇〇ちゃんのは大きいね、先生の音は雷みたいだね」や「壁の中はお部屋なのに電車の音がするよ」「水の中って音がしないんだね」等様々な発見をし、お互いに気づきを伝え合っていた。また1人の子が気づくと、「私も聞いてみたい」と順番に聞きながら「ほんとだね」など同じ場所の音を聴き、気づきを伝え合う姿が見られた。

④終わりの時期の姿・まとめ

・身の回りや体の中、様々な場所に音があることに気が付き、子ども達は音に関する話題を良くするようになった。また、普段気が付かない壁の中にも音があることや、音を聴く為の道具に興味をもち、探求を深める姿があった。



例：互いに心臓の音を聴く様子



例：壁の音を聴く様子



例：大人（父母）の心臓の音を聴く様子

まとめ

保育者が想像していた言葉や気づきよりも、より多くの気づきを子ども達から聞くことができた。聴診器には左右があり、反対向きだと聞こえないことや壁の中に音があることなど私たちも普段調べないことを一緒に探求することができた。探求を行う中で部屋ごとの壁の違いや同じ室内でも場所の違いによって音が変わるのではないかと気づいた子の姿もあった。そういった姿から同じ音でも場所の違いや形状の違いなど、異なる環境によっての音の変化や気づきを探求できるような配慮もあるべきだったと感じた。来年度は聴いた音を実際に形にしたり、類似した音を発見したりなど子ども達がより探求した内容を形にできるような取り組みや環境設定を整えていきたい。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

府中中河原雲母保育園



テーマ【 自然 】

設定した理由・背景

園の近くに多摩川が流れており子ども達も散歩の道中に見かけるため親しみを持っていました。日常であまり自然に触れる機会が無い現代だからこそ積極的に自然と触れ合いたいと思い設定した。

用意した環境設定

- ・購入品：虫眼鏡、お散歩バッグ
- ・奥多摩お泊り保育
- ・多摩動物公園見学

活動のあゆみ

○令和7年4月10日～令和8年3月12日

- ・多摩川散策（4月10日、6月9日、20日、25日、7月17日、10月30日）
→探検バッグと虫眼鏡、虫かご、虫取り網を持って多摩川周辺の草地や浅瀬で生き物を探した。
- ・生き物スケッチ（7月17日、8月6日、3月12日）
→生き物を見つけた際には子ども達が虫取り網で捕獲し虫かごに入れてみんなでスケッチをした。必要があれば園に戻ってから図鑑を確認し細かくスケッチをしていた。
- ・お泊り保育（8月6日）
→トレッキングで山の生き物を探索した。川遊びでは川に入り生き物に触れた。
- ・多摩動物公園（昆虫館見学）（3月12日）
→日本に生息する蝶を間近で見学し、園で絵を描いた。

＊探究活動の実績＊

①どんな問いかけから始めましたか？

↓奥多摩で行う活動を発表した際「どんな生き物があるかな」という問いかけとともに「保育園の近くと（奥多摩）山ではすんでいる生き物は違うのかな」と問いかけた。

②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

↓虫に詳しい児から「山にいる虫の方が大きいよ」という反応があった。どのくらい大きいのかという問いかけに子ども達は手のひらや体全体を使って「このくらいかなあ」と予想していた。初めは園周辺の多摩川で生息する生き物を見つけよく観察しながらスケッチをして記録し比較することを促した。

③活動中の子どもたちの姿・声、子ども達同士の関わり・対話

↓沢山の生き物を見つける中で初めは虫取り網で捕まえることが困難だった。「どうやって捕まえるの？」と試行錯誤し、「みんなで静かに、驚かさないようにしよう」と工夫しながら「葉っぱに止まるのを待ってごらん」等と促すと徐々に捕まえられる回数が増えた。虫かごに入れる作業は保育者が手伝い、羽の色や足などを真剣に観察していた。「何色に見える？」、「虫眼鏡で見たら足に毛が生えてない？」と聞くとじっと見つめ各々のスケッチに描いていた。奥多摩に行った際には大きなミズや芋虫を発見し、「こんな大きい保育園の近くでは見たことがないね」等と園周辺の環境と比べる姿があった。

④終わりの時期の姿・まとめ

散歩の際には遠くまで歩き、沢山の生き物をスケッチすることを楽しんでいました。初めは自然の生き物を怖がっていた児も徐々に興味を持ち、生き物との距離を縮めることができました。



山で生き物探す



捕まえた生き物の観察



昆虫館見学

まとめ

自然に興味を持つ姿が見られており、探索活動を積極的に取り入れた。幼児ならではの足場の悪い箇所も安全に配慮しながら進むことで公園ではあまり見た事のない花や生き物と出会うことができました。自然と離れている現代だからこそ子ども達にとって自然はより未知の世界でたくさんの発見があることが分かった。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

府中中河原雲母保育園



テーマ【 運動 】

設定した理由・背景

相撲教室に取り組む中で「勝ちたい」という気持ちが強くなってきた。しかし、具体的にどうすれば強くなるかが分からなくなっている姿があった。踏ん張る力が必要な競技であるため足腰を中心に身体をどのように動かせばどこが強く鍛えられるか等、様々な身体の動かし方について探求した。

用意した環境設定

- ・月2回の相撲教室
- ・長距離散歩の交通費

活動のあゆみ

○令和7年4月～令和8年3月

・相撲教室（4月23日開始）月1～2回

⇒蹲踞や四股で身体を支える。犬歩きやブリッジ、腕立て伏せ等身体の一部を使って支える。取り組みで相手とぶつかったり投げたりする。

・多摩川周辺探索 週1回

⇒長距離歩き足腰を鍛える。足場の悪い場所に行きバランスを取りながら生き物や草花を見つけ観察し描く。

・鉄棒

⇒腹筋や腕の力を使う。

・縄跳び

⇒一人用、大縄等。身体でリズムを取りながら数回～数十回個人で目標を立てて練習する。

✧探究活動の実績✧

①どんな問いかけから始めましたか？

↓「みんなのお相撲の目標は何？」という問いかけをした。

②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

↓「勝ち残りが一番になりたい」、「いっぱい勝ちたい」といった声が多数上がった。相撲では身体の中のどの部分を使うか一緒に考え興味を広げた。「まわし持つから腕かな」、「押されないように踏ん張る足かな」と動きながら考えた。足腰を強くしたら相撲に勝てると思え、長距離散歩や足場の悪い箇所への散策を提案した。冬には縄跳びや鉄棒で身体を強くすることを提案し子ども達は目標を立てて懸命に取り組んでいた。

③活動中の子どもたちの姿・声、子ども達同士の関わり・対話

↓初めは遠くまで歩くことに気分が乗らない様子もあったが「次はあそこまで歩けば魚いるかも」と促すと、自分なりに楽しみを見つけ楽しんで長い距離を歩いていた。「この坂を下ってもっと川に近付いてみよう」、「足に力を入れておいてね」と普段の散歩ではあまり行かない道を探検した。縄跳びでは「いつも2回しか跳べないけどどうしたらいいの？」と手足の使い方に疑問を持ち保育者とともに上手な児に聞きに行った。

④終わりの時期の姿・まとめ

歩く経験を通し4 kmほどは平然とした様子で歩けるほど足腰が強くなった。子ども達の一番の願いである相撲に勝つということもできるようになった。活動を通し身体だけでなく、挑戦する気持ちや諦めない気持ちが育まれ心身ともに強くたくましくなった。



山道を歩いた



相撲での取り組み



4 km散歩中間地点

まとめ

子どもたちが勝ちたい気持ちを強く持っていた相撲を取り入れた。1年間足腰を強くすることで大人と取り組みをしてもアッと驚く強さになった。初めは長距離の散歩も辛そうにしていたが、大人も子どもも諦めず取り組んだことで体力、精神力がともに向上したように感じる。生き物を探す、縄跳びを飛ぶ回数などから何事にも目標を持って取り組むようになった。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

府中中河原雲母保育園



テーマ【 異文化 】

設定した理由・背景

・園内で海外にルーツをもつ子が増え、外国やその生活習慣に興味をもつ子が増えた為、設定した。

用意した環境設定

- ・オンライン英会話
- ・購入物品 プロジェクター、スクリーン、PC、ウェブカメラ

活動のあゆみ

○令和7年6月～令和7年3月

- ・6月3日 週1回毎週火曜日実施
- ・10月1日 ・12月3日 ・2月5日

✿探究活動の実績✿

①どんな問いかけから始めましたか？

↓・「ここはどこ？」という問いから始め、実際に購入したプロジェクターやスクリーンを使って世界地図を子ども達に見せながら「みんなはどこに行きたい？」「どこの国が気になる？」と映像で流れている国について説明し、関心を高めた。

②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

↓・外国の方にも興味を示し、オンライン英会話の際に積極的に話そうとする姿が見られた。中でも「食べ物」に興味を示し、初めは自分が住んでいる国の食べ物に興味をもっていった。そこで、どんな食べ物が好きか質問した。その際に子ども達は嬉しそうな様子で「このウインナー食べたことあるよ」「〇〇はパン大好きなの」と声が上がった。そこで「みんながよく食べるのは何？どんなご飯？」と保育者がさらに問うと、子ども達は自分達の身近にあるよく食べる食べ物に興味をもち、さらに自分達がよく食べる物が他の国の食べ物でもあることに気づいた。「よく食べるパンはどこから来てるんだろう」や「どこの国の食べ物なの？」等、身近ではない国の食べ物に着目した。

③活動中の子どもたちの姿・声、子ども達同士の関わり・対話

↓・身近ではない国の食べ物に興味をもち、「美味しそうだね、食べてみたいね」と話しながら活動に取り組む姿が見られた。その中で「チーズは他の国の食べ物なの？」や「でもこの食べ物はスーパーで見たことあるよ」「食べる時はいただきますって言わないの？」等様々な発見をし、お互いに気づきを伝え合っていた。また1人の子が気づくと、「私もここと見たことあるよ」と他国について話しながら「綺麗だから行ってみたいね、美味しそうだから食べてみたいね」など意見を共有し、気づきを伝え合う姿が見られた。

④終わりの時期の姿・まとめ

・普段はあまり探求することがない自分たちの国との違いに気が付き、子ども達は「〇〇美味しそうだから食べてみたいね、この国行ってみたいね」など他国に関する話題を良くするようになった。また、普段なかなか知ることがない食べ物の調理の違いや食事の際の挨拶の違いにも気づき興味をもつ姿があった。



例：映像を真剣に見る様子



例：挨拶についての体操を踊る様子



例：どの国の食べ物を食べたいか選ぶ様子

まとめ

保育者も初めての活動であったが子ども達が興味をもちそうなテーマを選んだことで、多くの気づきや感想を子ども達から得ることができた。普段自分たちが食べている食べ物はどこの国のものなのか、なぜ普段行くスーパーにも同じ食べ物があるのかなど私たちが日頃気が付かないことを一緒に探求することができた。探求を行う中で食事をする際に挨拶が異なることに気づき、そういった姿から同じ食事の場でもマナーや挨拶についてとより探求できるような配慮をするべきであったと感じた。次年度以降は他の国の食べ物を描画などで表現したり、実際にクッキング保育を行ったりしながら子ども達が探求した内容を目だけではなく五感で感じ、形にできるような取り組みや環境設定を整えていきたい。